



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第  
6号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第6号). 泌尿器科紀要 2002, 48(6): 402-402

ISSUE DATE:

2002-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114759>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円，英文は6,500円，超過頁は1頁につき7,000円，写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円，6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし，著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

#### 編集後記

パリで開催されている International Consultation on Prostate Cancer (ICPC) に参加し，その会議の合間に編集後記を書いている。現時点で，サッカーワールドカップではベスト8が決定している。先月の編集後記では伝統のない日本は厳しい闘いを強いられるだろうと書いたが，日本チームは予想以上に善戦した。やはり開催国の利点と国をあげての応援が大きかったと思う。

しかし，ベスト8が決まる対トルコ戦にはやはり伝統の差がでた。韓国対イタリアの試合もよく似た試合展開になったが，韓国チームが見せてくれた後半のがむしゃらな攻撃に比べ，日本チームの攻撃に迫力が感じられなかったのは私だけだろうか。日本チームも勝ちたかったに違いない。しかし，形勢が不利となり，雨の中で疲れが出てきた終盤において，日本チームの気持ちに淡白なものが出てしまったのではないだろうか。物事がうまく運んでいるときには伝統とか歴史とかいうものは面に現われにくい。苦しい時にこそ，その不思議な力がにじみ出てくるのである。この大会で日本は大きな伝統を確実にひとつ作ったが，次回からは開催国の利点は無い。まずアジア予選を突破し，さらなる伝統を積み重ねてほしい。

パリのタクシーの運転手に「日本もダメだったね。フランスはさんざんだった。」と話しかけられた。ICPCの話は次の編集後記で紹介したい。

(小川 修)

---

泌尿器科紀要 第48巻 第6号 2002年6月25日 印刷 2002年6月30日 発行  
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会  
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100  
 FAX (075) 752-0190

[http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta\\_uro/index.html](http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta_uro/index.html)  
 印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入

---